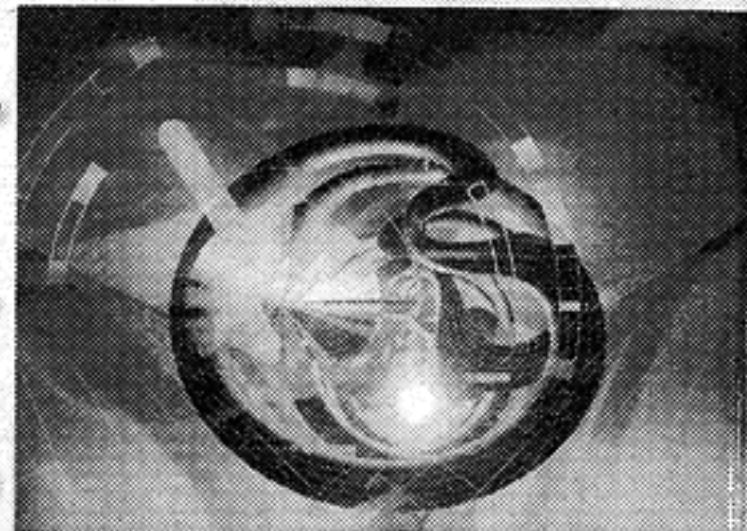


小原克博 著

宗教の

ポリティクス

日本社会と神教世界の邂逅



宗教は暴力を助長するのか？

宗教と政治の複合的な相互関係を問う！

晃洋書房

世界各地で後を絶たない。身近な会話の中でも「宗教と政治」を話題から避けた経験を持つ人も多いだろう。

筆者は同

志社大神学部教授で、キリスト教思想、比較

宗教倫理学などを研究する牧師。序論では、

西洋社会がカトリックによる宗教的な影響力

が弱まり「世俗化」「近代化」に進む一方、イ

スラム社会など伝統的な宗教を保った地域で

は人口増加を背景に発言力を増し「世俗的な

社会と宗教的な社会とのギャップが、国際政

治にも大きな影響をも

たらす」との見方を提示する。

各論では、古代から

「八百万の神」と称

される多神教国家・日

本にキリスト教が伝来

して以降の迫害や受容

の歴史を振り返り、結

果的には天皇制イデオ

ロギーの下で戦争協力

へと進む「日本的政教

一致の構造」を解き明

かす。

他方、キリスト世界

とイスラム世界の関係

などを例に、グローバ

ル社会に置かれた宗教

と政治の関係を概観。

「他者と向き合うこと

の困難さ」を認めつつ

「ナショナリズムと宗

教の複合的な関係を丁

寧に読み解いていく必

要がある」と指摘する。

ともすると敬遠されがちな宗教問題、国際

紛争のニュースを理解するテキストにもなりそうな一冊だ。

【五十嵐和大】

東京読書森

小原克博・著
晃洋書房、2100円

20世紀後半以降、イラン・パレスチナ紛争やイラク戦争後の宗派間対立、中国のチベット問題など宗教に根差した政治問題や暴力が